

Widespread distribution of Trypanosoma (Herpetosoma) grosi in Japanese field mice (Apodemus speciosus)


メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/43549


This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.




論文内容の要旨及び審査結果の要旨

受付番号 医博甲第 2481 号 氏名 仲本 賢太郎

論文審査担当者 主査 市村 宏 

副査 西條 清史 

中村 裕之 

学位請求論文

題 名 Widespread distribution of *Trypanosoma (Herpetosoma) grosi* in Japanese field mice (*Apodemus speciosus*)
[日本国内のアカネズミ (*Apodemus speciosus*) に蔓延する *Trypanosoma (Herpetosoma) grosi*]

掲載雑誌名 Japanese Journal of Veterinary Parasitology 第 13 巻 第 2 号
67 頁～73 頁 (平成 26 年 12 月掲載)

国内の家畜や野生動物において、トリパノソーマ属原虫の地理的分布については、これまでほとんど調べられていない。そこで、野生動物での本原虫の分布を評価するため、国内 11 箇所（北海道、本州、四国、九州および淡路島）で捕獲されたアカネズミより 20 検体のトリパノソーマ属原虫陽性血液検体を採取した。

主な採取地における陽性率は、青森県で 25.0% (1/4)、また、石川県の能登半島で 83.3% (5/6)、白山で 37.5% (3/8) であった。血液塗沫標本のギムザ染色により得られた錐鞭毛型の形態計測では、全ての分離株は *Trypanosoma (Herpetosoma) grosi* の計測指標内であり、また、18S リボソーム RNA 遺伝子座の部分配列 (522 bp) の解析においても *T. grosi* と同定された。近年、動物特異的なトリパノソーマ属原虫がヒトへの感染を起こす非典型的な症例が報告され、認知されるようになってきた。従って、ヒトトリパノソーマ症の潜在的な感染源として、日本国内の野鼠に広く生息・蔓延している *T. grosi* に対しても警戒が必要である。

本論文は、日本の野鼠におけるトリパノソーマ属原虫の地理的分布を明らかにし、ヒトトリパノソーマ症の潜在的な感染源として評価を行なった初めての論文であり、博士 (医学) の学位に値する労作であると評価された。